初修者向け中国語音読教材としての漢詩

宮　下　尚　子
（福岡大学共通教育研究センター
外国語講師）

はじめに

この教材は、中国語教育の初学者（おもに１年生２年生）が、中国語の音読を練習するための副教材として、これまでの授業の中で作成、配布してきた漢詩のプリント教材を編集しなおしたものです。

漢詩を選定するにあたり、受講生に興味を持ってもらえるように、①日本人が中学校や高校で古典および漢文を学ぶ際に教材としてよくとりあげられているもの、②私たちの日々の読書や生活の中で、触れる機会があることわざや言い回し、③『三国志演義』や『紅楼夢』のような中国古典文学を代表する物語や小説の中に出てくる詩、④日本ではあまり知られていなくても、中国では知名度が高く、現在まで詠い継がれている詩、⑤感受性の豊かな若者の心に訴えるような人生や死についての感慨を詠んだもの、という観点からごく短いものを中心に集めました。

中国語の授業の副教材という立場から、本文は本来正字体であるところ、それらを簡体字に改めました。本文のピンイン、書き下し文、語句および必要な場合は文法の解説、現代語訳、詩の背景解説を載せています。

表記や訳の誤りについてはすべて編集者に責任があることを明記し、かつご指正いただけますようお願い申し上げます。

版本および参考書目

『全唐詩』北京：中華書局、1960年。
簡野道明（1929）『唐詩撰詳説』東京：明治書院。
国家語言文字工作委員会（2009）『中華経典詩文誦読読本・小学篇Ⅱ』北京：北京大学出版社。
国家語言文字工作委員会（2009）『中華経典詩文誦読読本・小学篇Ⅰ』北京：北京大学出版社。
国家語言文字工作委員会（2009）『中華経典詩文誦読読本・幼児篇』北京：北京大学出版社。
吕明涛・谷学彝評注（2009）『宋詞三百首』北京：中華書局。
解玉峰訳注（2009）『元曲三百首』北京：中華書局。
願青編注（2009）『唐詞三百首』北京：中華書局。
羅貫中墡『大字足本繡像全国三国志演義―百二十六巻』上海：掃葉山房、1923年。

目　　録

第一首	春晓（春　暁）	（唐）孟浩然
第二首	登幽州台歌（幽州台に登るの歌）	（唐）陈子昂
第三首	黄鹤楼（黄　鶴　楼）	（唐）崔　颢
第四首	静夜思（静夜に思ふ）	（唐）李　白
第五首	早发白帝城（早に白帝城を発す）	（唐）李　白
第六首	黄鹤楼送孟浩然之广陵（黄鶴楼に孟浩然の広陵へ之くを送る）	（唐）李　白
第七首	秋浦歌（秋浦の歌）	（唐）李　白
第八首	峨眉山月歌（峨眉山月の歌）	（唐）李　白
第九首	渭城曲（渭城の曲）	（唐）王　维
第十首	春望（春　望）	（唐）杜　甫
第十一首	登岳阳楼（岳陽楼に登る）	（唐）杜　甫
第十二首	山行（山　行）	（唐）杜　牧
第十三首	凉州词（涼　州　詞）	（唐）王　翰
第十四首	凉州词（涼　州　詞）	（唐）王之涣
第十五首	登鹳雀楼（鸛鵲楼に登る）	（唐）王之涣
第十六首	从军行（従　軍　行）	（唐）杨　炯
第十七首	少年行（少　年　行）	（唐）吴象之

第十八首	蒹葭（蒹　葭）	诗　经
第十九首	倾城倾国（倾城倾国）	汉　书
第二十首	易水歌（易水の歌）	（楚）荆　轲
第二十一首	水调歌头（水調歌頭）	（宋）苏　轼
第二十二首	日本刀歌（日本刀歌）	（宋）欧阳脩
第二十三首	偶　成（偶　成）	（宋）朱　熹
第二十四首	大德歌　春（大德歌）	（元）关汉卿
第二十五首	大德歌　夏（大德歌）	（元）关汉卿
第二十六首	大德歌　秋（大德歌）	（元）关汉卿
第二十七首	大德歌　冬（大德歌）	（元）关汉卿
第二十八首	常山有虎将（常山に虎将あり）	（元）罗贯中
第二十九首	忆昔常山赵子龙（憶う昔常山趙子龍）	（元）罗贯中
第三十首	兰花草（蘭花草）	胡　适

第一首

春　暁
Chūn xiǎo

孟浩然
Mèng Hàorán

春眠不覚暁。
chūn mián bù jué xiǎo.

処処聞啼鳥。
chùchù wén tí niǎo.

夜来風雨声。
yè lái fēng yǔ shēng.

花落知多少。
huā luò zhī duōshaǒ.

書き下し文

春　暁
春眠暁を覚えず。
処処啼鳥を聞く。
夜来風雨の声。
花落つること知んぬ多少ぞ。

単語

暁　　夜明け
聞　　聞く
多少　どのくらい

現代語訳

春の夜の眠りは心地よく、朝が来たのにも気づかなかった。あちこちらで鳥が啼くのが聞こえて目が覚めた。昨夜は一晩中、雨まじりの風が吹いていたが、花はどれくらい散ってしまっただろうか。

第二首

登 幽 州 台 歌
Dēng Yōu zhōu tái gē

陈子昂
Chén zǐ'áng

前不見古人。
Qián bú jiàn gǔ rén.

後不見来者。
hòu bú jiàn lái zhě.

念天地之悠悠。
Niàn tiān dì zhī yōu yōu.

独愴然而悌下。
dú chuàng rán ér tì xià.

書き下し文

幽州台に登るの歌

前に古人を見ず，
後 に来 者 を見ず。
天地の悠悠たるを念い，
独り愴然として 悌 下る。

語句

古人　昔の人
来者　将来の人
悠悠　時間と空間の無限の広がり
念　　心にかける、なつかしく思う
愴然　かなしみにくれること
悌下　なみだがこぼれる

現代語訳

私の前に行く古人に会う事はできない。
私の後から来るであろう未来の者を見ることもない。
高台に登り、天地と時間の無限の広がりを思い、
有限の人生の儚さと孤独の悲しみに心を痛め、涙が流れる。

解説

幽州とは現在の北京と河北省の順天、永平、及び遼寧省の西北一帯を含む広大な地を指した。北方幽昧の地にあるので幽州と言う。幽州台は現在の北京にあったとされる高台であるが、現在の北京とは異なり、北方防衛のための最前線の軍事拠点であったと思われる。作者は当時契丹征討の参謀としてこの地にあった。戦場での緊張感に加え、失意と孤独の中で詠まれた詩である。

詩の形式は、前の二句は五言、後の二句は六言という破格で、雑言古詩と呼ばれる。押韻（第2句と第4句）も独特であり、盛唐の詩とは異なる風格を持つ。

第三首

黄 鶴 楼
Huáng hè lóu

崔 顥
Cuī Hào

昔人已乘黄鶴去。
xī rén yǐ chéng huáng hè qù.

此地空余黄鶴楼。
cǐdì kōng yú Huáng hè lóu.

黄鶴一去不复返。
huáng hè yí qù bú fù fǎn.

白云千載空悠悠。
bái yún qiān zǎi kōng yōu yōu.

晴川历历汉阳树。
qíng chuáng lì lì hàn yáng shù.

芳草萋萋鸚鵡洲。
fāng cǎo qī qī Yīng wǔ zhōu.

日暮乡关何処是。
rì mù xiāng guān hé chù shì.

烟波江上使人愁。
yān bō jiāng shàng shǐ rén chóu.

書き下し文

昔人已に黄鶴に乗りて去る。此の地空しく余す黄鶴楼。
黄鶴 一 去って復た返らず。白雲の千載空しく悠悠。
晴川歴歴たり漢陽の樹。芳草萋萋たり鸚鵡洲 。
日暮郷関何れの処か是なる。煙波江上人をして愁へしむ。

語句

黄鶴楼　現在の湖北省武昌蛇山にあった。言い伝えによると、仙人が黄鶴に乗ってこの地で憩うたことに由来するという。
昔人　伝説中の仙人を指す。
历历　ありありと。はっきりわかっている様子。
汉阳　武昌の西にあって、黄鶴楼をよく望むことができる。
萋萋　生い茂る様子。
鹦鹉洲　長江にある中洲。黄祖がここで禰衡を殺した。禰衡がかつて鸚鵡の賦を詠んだことに因んで鸚鵡洲と名付けられた。
乡关　故郷。

現代語訳

昔仙人が黄色い鶴に乗ってこの地を去ったが、今この地にはただ黄鶴楼だけが空しく残る。
黄鶴は仙人を乗せ飛び去って、二度とこの世に帰って来ないが、天上の白雲は千年を隔てた今も、遠く漂い長く変わることがない。
楼に上り眺望すれば、晴れ渡った空の下、長江対岸の漢陽の樹木がありあり立ち並んでいるのが見え、中洲の鸚鵡洲には芳草が生い茂げり大変良い景色である。
しかし鸚鵡の賦を作った禰衡は既にこの世になく、懐古の情に堪えないでいるうちに、知らず知らずのうちに日が暮れて、我が故郷はどこにあるのか見えるはずもなく、長江の川面を煙のように覆う霧が私の愁いをかきたてるばかりである。

解説

　黄鶴楼に登り四方を望み、天地の悠久と人生の須臾（しゅゆ）を悟り、望郷の念をかき立てられて作られた詩であろう。李白（701-762）が黄鶴楼に登り、詩興を催したが楼壁に書かれたこの詩を見てこれ以上の詩を書くことはできないと筆を置いたとされる。

第四首

静 夜 思
Jīng yè sī

李　白
Lǐ　Bái

床 前 看 月 光。
Chuáng qián kàn yuè guāng.

疑 是 地 上 霜。
Yí shì dì shàng shuāng.

举 头 望 山 月。
Jù tóu wàng shān yuè.

低 头 思 故 乡。
Dī tóu sī gù xiāng.

書き下し文

静夜に思ふ

牀前月光を看(み)る。
疑らくは是(こ)れ地上の霜。
頭(かうべ)を挙げて山月を望み、
頭を低(た)れて故郷を思ふ。

語句

床　寝台。
疑　〜ではないかと思った。現代語の“以为”に相当する。

現代語訳

或る静かな夜、ふと寝台の前に白く射し込む月光を見て、これは霜が降ったのだろうかと疑ったが、よく見れば霜ではない。頭を挙げて山月を望み、それが月の光であることを知り、月を見ることによって、頭を低(た)れてつくづくと故郷に思いを馳せた。

第五首

早 发 白 帝 城
Zǎo fā Bái dì chéng

李　白
Lǐ　Bái

朝辞白帝彩云间。
Zhào cí Bǎidì cǎiyún jiān.

千里江陵一日还。
Qiānrì Jiānglíng yírì huán.

两岸猿声啼不住。
Liǎng'àn yuánshēng tí bú zhù.

轻舟已过万重山。
Qīng zhóu yǐ guò wánchóng shān.

書き下し文

早(つと)に白帝城を発つ

朝に辞(じ)す白帝彩雲の間。
千里の江陵一日に還(かへ)る。
両岸の猿声啼いて住(とどま)らざるに、
軽舟已(すで)に過ぐ万重の山。

語句

白帝城　四川省の東、揚子江の北岸、白帝山上にあつた城。
　　蜀の昭烈帝（劉備）が崩じた所である。

現代語訳

朝早くに彩雲たなびく白帝城を出発。
千里離れた江陵まで一日で帰ることができる。
そのように速く帰ることができたのは、江流が速いからである。
両岸の猿聲が一声「キャツ」と啼いてその声が尾を引いて啼きやまないうちに、
軽やかな小舟は幾万に重なる山々の間を一気に通り過ぎてしまう。

解説

　朝早くに船で白帝城を出発したことを詠んだものである。猿の啼き声により小舟の速さを強調した。前の二句は後ろの二句によって説明されるという構造を持つ。また、句中に、“白帝―彩雲”、“千里―一日―万重”のような対応が見られることも、詩の趣を深くしている。

第六首

黄 鶴 楼 送 孟 浩 然 之 广 陵
Huáng hè lóu sòng Mèng Hào rán zhī Guǎng líng

李 白
Lǐ Bái

故 人 西 辞 黄 鶴 楼。
Gù rén xī cí Huáng hè lóu.

烟 花 三 月 下 扬 州。
Yān huā sān yuè xià Yáng zhōu.

孤 帆 遠 影 碧 空 尽。
Gū fān yuǎn yǐng bì kòng jìn.

唯 见 長 江 天 际 流。
Wéi jiàn Cháng jiāng tiān jì liú.

書き下し文

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之(ゆ)くを送る

故人西のかた黄鶴楼を辞し、
煙花三月揚州を下る。
孤帆の遠影、碧空に尽き、
唯だ見る長江の天際に流るるを。

語句

黄鶴樓　湖北省武漢市にある楼名。
孟浩然　盛唐詩人、李白の友人。巻末の作者一覧を参照のこと。
之　　行く、至る。
　　例）先生将何之。（先生将（まさ）に何れに之（ゆ）かんとす）
廣陵　　揚州の古称。
故人　　旧友。ここでは孟浩然を指す。
煙花　　春霞の中の美景。
下　　都から次第に離れ去ること。
揚州　　江蘇省にある市。風流繁華な所として知られる。
孤帆　　一艘だけ浮かぶ帆掛け船。
尽　　消える。
唯　　ただ〜のみ（現代語の“只”に相当）。
天际　　天と地の相接する際（きわ）。

現代語訳

旧友孟浩然が、今まさに西にある黄鶴楼を辞し、のどかな花煙の3月に舟に乗って東の繁華な揚州へ下ろうとしている。私はそれを黄鶴楼の上から見送るが、唯ひとつの帆影はとうとう天の碧色と混じり地平線の彼方に消えてしまった。詩人はそこを離れ難く、長江が遠く天が尽きるまで流れるのを見ていた。

第七首

秋 浦 歌
Qiū pǔ gē

李 白
Lǐ Bái

白 发 三 千 丈。
Bái fà sān qiān zhàng.

缘 愁 似 个 长。
Yuán chóu sì gè cháng.

不 知 明 镜 里。
Bù zhī míng jìng lǐ.

何 处 得 秋 霜。
Hé chù dé qiū shuāng.

書き下し文

秋浦の歌

白髪三千丈。
愁に縁て箇(かく)の似(ごと)く長し。
知らず明鏡の裏、
何れの処よりか秋霜を得たる。

語句

秋浦　唐代の池州府秋浦県。今の安徽省貴池西。
白发　白髪。また老年をも指す。
丈　　長さの単位。一丈は約3.3m。
缘　　～ゆえに。
个　　このように。“似个”は“如此rúcǐ”の俗語。
　　現代語の“这样zhèyàng，这般zhèbān”に相当。
明镜　澄みきった鏡。
何处　どこ。現代語の哪里nǎliに相当。
秋霜　頭髪が白いことを秋の霜に例えた。

現代語訳

鏡に照らしてみると、白髪が三千丈はあろうかというほど長くのびていた。これは我が心に積もる愁のためにこうなったのであろうか。今日鏡を見るまでは思いもしなかったことで不思議で仕方が無い。それにしても明鏡の中の秋の霜（白髪）は一体どこからやってきて俺の頭に乗ったのであろうか。

解説

　李白が秋浦に客として留まっていた時、己の老いたことを嘆いて詠んだ。「白髪三千丈」はあまりにも有名である。「秋浦歌」は十七首連作であり、これはその第十五首である。第四作に「両鬢入秋浦、一朝颯已衰。猿聲催白髪。長短尽成絲」（両鬢秋浦に入り、一朝にして颯（さつ）として已に衰ふ、猿聲白髪を催し、長短盡く絲と成る）のようにあるのと呼応している。

第八首

峨 眉 山 月 歌
É méi shān yuè gē

李白
Lǐ Bái

峨 眉 山 月 半 轮 秋。
É méi shān yuè bàn lún qiū.

影 入 平 羌 江 水 流。
Yǐng rù Píng qiáng jiāng shuǐ liú.

夜 发 清 溪 向 三 峡。
Yè fā qīng xī xiàng sān xiá.

思 君 不 见 下 渝 州。
Sì jūn bú jiàn xià Yú zhōu.

書き下し文

峨眉山月の歌（がび）

峨眉山月半輪（はんりん）の秋。
影は平羌江水（へいきやうかうすい）に入って流る。
夜清溪を発して三峡（かふ）に向ふ、
君を思へども見えず渝州（ゆしゆう）に下る。

語句

峨眉山　四川省峨眉の東南にある山。最初「蛾眉」と書いていたのを「峨眉」と改めた。二つの峰が向かい合って蛾の眉のように見えるからこのように言う。五大山、天台山と並び、仏教の霊場として知られる。また女性の眉を「蛾尾」ということから、ここでは女性を指しているともされる。
半輪　上弦すなわち陰暦七八日頃の月。
影　月の光、もしくは水に映る月の姿。
平羌江　峨眉山の北側を流れる青衣江（せいいこう）の古い呼び名。四川省雅安県から峨眉山の北を流れ、大渡河と合流する。諸葛亮孔明が羌夷をここで平定したのでこう呼ぶ。
三峡　四川省の奉節県から湖北省の宣昌までの大渓谷。途中三つの渓谷があるのをまとめて「三峡」という。
清渓　宿駅の名。四川省漢源県。
思君　君は月を指す。
渝州　今の重慶。

現代語訳

秋の峨眉山の上に半輪の月出ている。月影は江水の流れに映り、また平羌江の激しい流れに浮かんで流れていく。私は夜、清渓から舟出して三峡のほうに向かおうとしているが、両岸の山が迫って高いために、宵のうちに少し見えた月もやがて見えなくなってしまった。
今一度君を見たい思っていたが、遂に見ることができず、とうとう見ないまま渝州まで下ってしまった。

解説

「峨眉山」は「蛾眉山」とも書き、蛾の触角のような女性の眉、つまり女性の象徴とされる。そのため、「峨眉山」という地名から、この詩は月にかけて女性のことを歌っているとも言われている。

第九首

渭 城 曲
Wèi chéng qǔ

王　维
Wang Wei

渭 城 朝 雨 浥 轻 尘。
Wèi chéng zhāo yǔ yì qīng chēn.

客 舍 青 青 柳 色 新。
Kè shè qīng qīng liǔ sè xīn.

劝 君 更 尽 一 杯 酒。
Quàn jūn gèng jìn yì bēi jiǔ.

西 出 阳 关 无 故 人。
Xī chū Yáng guān wú gù rén.

書き下し文

渭城の曲

渭城の朝雨軽塵を浥し、
客舎青青として柳色新なり。
勧む君に更に尽くせ一杯の酒、
西のかた陽関を出ずれば故人無からん。

単語

渭城　秦代の咸陽城，汉代に渭城と改める。長安の西北、渭水の北岸に位置する。
浥　　湿らせる、潤す。
客舎　旅店。
阳关　今の甘粛省敦煌の西南に位置した関名。玉門関とともに古代の西域への要道であったというが詳しい位置は不明。

現代語訳

明け方に降った雨が渭城の町の土埃を洗い流して空気を湿らせる。
旅店の柳の葉も雨に洗い流されて青青として鮮やかである。
君、さあもう一杯送別の酒を飲み干したまえ。
西にある陽関を過ぎてしまえば、もう古くからの友人には会えないのだから。

解説

この詩は別名「送元二使安西」（元二の安西に使するを送る）という詩題でも知られている。“元二”というのは、元という姓の家の二番目の人、という意味であり、作者王維の旧友である。彼が安西都護府（現在の新疆庫車県）へ旅立つにあたり、見送りのために同行して、旅館で酒を酌み交わした一幕を詩にしたのか。中国には「送君千里総有離別」（君を千里送るとも総じて離別有り）という諺があり、旅立つ人を「送（おくる）」という行為は、旅人とともに目的地まで中途の一日か二日の距離を同行する習慣があった。

この詩は「陽関曲」とも言われ、古くは曲に合わせて歌われていたと考えられている。朗読や吟詠の際には「陽関三畳」という歌い方、つまり、結句を歌い終えた後に結句をさらに三度繰り返す慣習がある。聞き覚えのある「西陽関を出れば故人なからん、なからん、なからん、故人なからん」の箇所は有名。中国語では以下のように朗読される。

渭城朝雨浥轻尘。
客舍青青柳色新。
劝君更尽一杯酒。
西出阳关无故人。无无无故人。

第十首

春　望
Chūn wàng

杜甫
Dù Fǔ

国 破 山 河 在，城 春 草 木 深。
Guó pò shān hé zài, chéng chūn cǎo mù shēn.

感 时 花 溅 泪，恨 别 鸟 惊 心。
Gǎn shí huā jiàn lèi, hèn bié niǎo jīng xīn.

烽 火 连 三 月，家 书 抵 万 金。
Fēng huǒ lián sān yuè, jiā shū dǐ wàn jīn.

白 头 搔 更 短，浑 欲 不 胜 簪。
Bái tóu sāo gèng duǎn, hún yù bú shèng zān.

書き下し文

春　望

国破れて山河あり、城春にして草木深し。
時に感じて花にも涙を濺(そそ)ぎ、別れを恨みては鳥にも心を驚かす。
烽火三月に連なり、家書万金に抵(あた)る。
白頭掻けば更に短く、渾(すべ)て簪(しん)に勝(た)へざらんと欲す。

単語

春望　春のながめ。“望”は遠くから眺める意。
国　　ここでは首都長安を指す。
破　　建造物が破壊され、社会の秩序が乱れること。
山河　“国”に対応した自然のこと。
城　　中国の城とは、城壁とそれに囲まれた都市を意味する。
濺　　しきりに涙が流れること。
家書　家族からの手紙。
抵　　同様の価値がある。
白頭　白髪頭。
掻　　かきむしる。不安な心理を表す。
渾　　現代語の“全”“都”に相当する副詞。全て、全く。
不胜　耐えられない。
欲　　今にも〜しそうである。ここでは意思ではなく未来を表す。

現代語訳

安禄山の乱により、国都長安は破壊されてしまったが、自然は昔のまま残っている。
廃墟と化した城壁の中にも春が来て草木が深く生い茂る。
戦乱の時世を悲しく感じるためか、花を見ても涙が流れ、家族との別れを恨めしく思い、鳥のさえずりにも心を痛めている。
危急を知らせる烽火は数ケ月もの間続き、戦乱は止まず、家族からの手紙は大変貴重なもので万金にも価する。
苦しみにのたうち白髪頭をかきむしれば髪は一層薄くなり、簪を留めることさえできなくなりそうだ。

解説

唐玄宗天宝十四（755）年十一月に安禄山が反乱を起こし、翌年長安を占領した。玄宗は蜀に逃れ、玄宗に代わり粛宗が即位したので、杜甫は家族を遺して単身粛宗のもとに赴こうとしたが反乱軍に捉えられた。「春望」は長安における獄中の作とされている。

第十一首

登 岳 阳 楼
Deng Yue yang lou

杜　甫
Dù　Fǔ

昔闻洞庭水，今上岳阳楼。
Xī wén Tóng tíng shuǐ, jīn shàng Yuè yáng lóu.

吴楚东南坼，乾坤日夜浮。
Wū chū dōng nán gí, gián kūn rì yè fú.

亲朋无一字，老病有孤舟。
Qīng péng wú yí zì, lǎo bìng yǒu gū zhōu.

戎马关山北，凭轩涕泗流。
Róng mǎ guān shān běi, píng xuān tì sì liú.

書き下し文

岳陽楼に登る

昔聞く洞庭の水、今上（のぼ）る岳陽楼。
呉楚東南に坼（さ）け、乾坤（けんこん）日夜浮かぶ。
親朋（しんぽう）一字無く、老病孤舟有り。
戎馬（じゅうば）関山の北，軒に憑（ていし）りて涕泗流る。

語句

岳陽楼　洞庭湖の東南にある楼。
坼　　分かれる。
乾坤　　天地。
親朋　　親戚や友人。
無一字　全く便りのないこと。
戎馬　　軍馬。戦乱が続くことを指す。
涕泗　　なみだ。

現代語訳

昔から洞庭湖の美しい様を聞いてはいたが、今始めて岳陽楼に上ってこの湖を目の当たりにし、心を打たれた。
呉楚の地はこの湖によって東南に分かれ、湖面には広大な天地が映し出されている。
思えば親戚や友人から一通の便りさえなく、年老いて病のある我が身にはただ一艘の舟があるだけ。
故郷に近い関所のある山々は今も戦乱が続き帰ることもできない。
流浪の我が身、戦乱の続く世の中を思い、欄干に凭りかかり涙がこぼれる。

第十二首

山　行
Shān xíng

杜　牧
Dù　Mù

远 上 寒 山 石 径 斜。
Yuǎn shàng hán shān shí jìng xiá.

白 云 生 处 有 人 家。
Bái yún shēng chù yǒu rén jiā.

停 车 坐 爱 枫 林 晚，
Tíng chē zuò ài fēng lín wǎn,

霜 叶 红 于 二 月 花。
Shuāng yè hóng yú èr yuè huā.

書き下し文

山　行

遠く寒山に上れば石径斜めなり。
白雲の生ずる処（ところ）人家有り。
車を止（とど）めて坐（そぞろ）に愛す楓林の晩（くれ）、
霜葉（さふえふ）は二月の花より紅（くれなる）なり。

単語

石径　　石まじりの小道
坐　　そぞろに、なんとはなしに、無心に。
二月花　春の花、桃花。

文法

“霜叶红于二月花”　　～比較を表す“于（於）”

“于（於）”は古典では比較を表す介詞として用いられる。つまり、

“A＋形容詞＋**于（於）**+B”　の形式で、「AはBより……である」。

例: 苛政猛**于**虎。　　「苛政は虎よりも猛々しい」
　Kēzhèng měng yú hǔ.

現代語では、介詞“比”を用いて次のような語順をとる。

“A＋比＋B＋形容詞”「AはBより……である」

例: 这位哥哥**比**我大一岁。(『紅楼夢』第3回)
　Zhè wèi gēge bǐ wǒ dà yí suì.
　「こちらのお兄様は私よりも一つ大きいんです。」

古典語の比較を表現する介詞には、“于（於）”の他に、“过（過）”“似”“如”等がある。

現代語訳

深秋の寒々とした山に入ると、石まじりの山道が続く。
驚いたことには、霧の中のこんな深い山奥にも人家があるようだ。
詩人は車を停めて楓林の山景を無心に見入った。霜で紅葉したあの火のように紅い楓の葉は、遠くに見える初春の桃の花よりももっと紅い。あたかも火炎が寒山を覆ったかのようである。

第十三首

凉 州 词
Liáng zhōu cí

王　翰
Wáng Hàn

葡 萄 美 酒 夜 光 杯。
pú táo měi jiǔ yè guāng bēi.

欲 饮 琵 琶 马 上 催。
yù yǐn pí pá mǎ shàng cuī.

醉 臥 沙 场 君 莫 笑。
zuì wò shā chǎng jūn mò xiào.

古 来 征 战 几 人 回。
gǔ lái zhēngzhàn jǐ rén huí.

書き下し文

凉州詞

葡萄の美酒夜光の杯。
飲まんと欲して琵琶馬上に催(もよほ)す。
醉ひて沙場に臥す君笑ふこと莫(なか)れ、
古来征戰幾人か回(かへ)る。

語句

涼州詞　涼州は今の甘粛省武威市。涼州詞とは唐代の楽府名。地名を詞の題としたいわれは、地方官が当地の流行歌を採集して朝廷にすすめたことによる。題を借りて、征戦の苦を叙したものである。
欲飲　まさに酒を飲もうとしたとき。“欲”は将然を表す。
琵琶馬上　「馬上琵琶」の倒文。琵琶とは馬上で弾く楽器である。
莫　現代語の“不要”。〜しないでくれ。
幾人回　反語による否定の感情を強める。戻った者は殆どいない。

現代語訳

葡萄の美酒を夜光の玉杯に注ぎまさに飲もうとする。
興を催して琵琶を馬上で弾じ、大酔してそのまま沙場に倒れ伏してしまった。
君はどうかこの無作法を笑わないでほしい。
古来この地に征戦に来た者は多いけれど、無事に生還したものは何人もいないではないか。明日の命をも知れない身であれば、酒を飲み一時の歓楽に身を任せたとしても誰が誹ることができようか。

第十四首

凉 州 词
Liáng zhōu cí

王之涣
Wáng Zhī huàn

黄 河 远 上 白 云 间。
Huáng hé yuǎn shàng bái yún jiān.

一 片 孤 城 万 仞 山。
Yípiàn gūchéng wàn rèn shān.

羌 笛 何 须 怨 杨 柳。
Qiāngdì hé xū yuàn yáng liǔ.

春 风 不 度 玉 门 关。
Chūn fēng bú dù Yù mén guān.

書き下し文

凉州詞

黄河遠く上る白雲の間、
一片の孤城万仞の山。
羌笛何ぞ須ひん楊柳を怨むことを。
春光度らず玉門関。

語句

凉州詞　唐代楽府名。「楽府」とは詩の形式の一である。楽府の題を借り、唐代以後に行われた長短句を交えた詩を指す。

黄河遠上　黄河の遠く崑崙山より発源し、東流して漸（ようや）く下ることを指す。

一片　現代語の「一座」。

孤城　ここでは玉門関を指す。

萬仞　非常に高いこと。一仞は八尺もしくは七尺を指す。

羌笛　羌は中国の西北にすむ古代の民族名。西羌ともいう。笛という楽器は本来、西羌より伝来したので、笛のことを「羌笛」ともいう。

何須　〜する必要はない。

怨　悲しく怨みに満ちた楽曲を奏でる意味もある。

楊柳　楽府「横笛曲」中の「折楊柳」を指す。同時にまた柳の木も指す。「折楊柳」とは、人が離別の際に柳を手折って悲しむ曲である。

不度　現代語の「不到」。即ち届かないこと。

玉门关　漢代に甘粛省敦煌の北西80キロに設けられた関所。南西の陽関（←第十首「渭城曲」を参照）とともに古来中国から西域に通じる重要な門戸である。

現代語釈

黄河は遠く崑崙山より発源し、東流してようやく下る。
西に向かってこれを望めば、高く雲間にあるように見える。見渡す限り目を遮るものない荒涼とした地であり、ただ一片の孤城（玉門関）が万仞の高山にそびえるばかり。
いま、哀しい「折楊柳」曲を誰が吹いているのかは知らないが、ここに江南の楊がないことを怨まないでほしい。
関内の春風さえも玉門関に至ることはなく、春風が届かなければ楊が生えることもなく（人もまた同じく玉門関に至ることはないので）、別れをたむける必要さえないのだから。

第十五首

登　鸛　雀　楼
Dēng guàn què lóu

白 日 依 山 尽。
Bái rì yī shān jìn.

黄 河 入 海 流。
Huáng hé rù hǎi liú.

欲 穷 千 里 目。
Yù qióng qiān lǐ mù.

更 上 一 层 楼。
Gèng shàng yì céng lóu.

書き下し文

鸛鵲楼に登る
白日、山に依りて尽き、
黄河、海に入りて流る。
千里の目を窮めんと欲し、
更に上る一層楼。

語句

鸛雀楼　鸛雀楼、鸛鵲楼とも書く。鸛鵲、鸛雀ともにコウノトリのこと。山西省永源県にあった三層の楼。脚下に黄河をおき中条山脈に対し、眺望は雄大にして絶佳であったとされる。
依　　さえぎる、さえぎられること。
欲　　～しようとする。現代語の“想要”に相当。
穷　　窮める、ほしいままにする。現代語の“尽”に相当。
千里目　目は“目光、視線”のこと。千里眼。どこまでも見通す力。
更　　現代語の“再”に相当。
一層楼　ひとつの高楼。ここでは鸛雀楼を指す。

現代語訳

千里の眺めを窮めんとして高楼に上れば、今まさに夕日が山に依って尽きるところまで見え、黄河が遠く海に入って流れるところまでが見える。

この眺望に満足することなく、更に大観を縦（ほしいまま）にせんがため、この楼の一層高いところに上ろうとする。

第十六首

从 军 行
Cong Jun Xing

王 昌 龄
Wang Changling

青海长云暗雪山。
Qīng hǎi cháng yún àn xué shān.

孤城遥望玉门关。
Gū chéng yāo wàng Yùménguān.

黄沙百战穿金甲。
Huángshā bǎi zhàn chuān jīn jiǎ.

不破楼兰终不还。
Bù pó Lóulán zhōng bù huán.

書き下し文

従軍行
青海の長雲雪山暗し。
孤城遥かに望む玉門関。
黄砂の百戦金甲を穿つ。
桜蘭を破らずんば終に還らず。

語句

青海　湖水の名。
雪山　天山の一名。
玉门关　漢土と西域との境にある関所。
黄沙　砂漠
楼蘭　西域の国名。タリム盆地東部のオアシス都市。シルクロードの要衝として繁栄したが、ロブノール湖の移動により衰退し、七世紀には廃墟と化した。
终　始終、最後まで。“死”と同義であるが、これを婉曲に表した。

現代語訳

青海から天山にかけて漠々と長くたなびく雲により陰鬱な景色が愁をさそう。孤城に登り遥か故郷の方にある玉門関を望みいっそうのやるせなさが募る。黄砂を帯びた沙漠の胡地に入って久しく、その間実に百度の苦戦に遭い、金の鎧も破れて穴があいてしまったが、楼蘭を破らなければ故郷に帰ることはないのである。

第十七首

少年行
Shào nián xíng

吴象之
Wú Xiàng zhī

承恩借猎小平津。
Chéng ēn jiè liè xiǎo píng jīng.

使气常游中贵人。
Shǐ qì cháng yóu zhōng guì rén.

一掷千金浑是胆。
Yi zhì qiān jīn hún shì dǎn.

家无四壁不知贫。
Jiā wú sì bì bù zhī pín.

書き下し文
恩を承(う)けて借猟す小平津。
気を使うて常に遊ぶ中貴人。
一擲(てき)千金渾べて是れ胆。
家に四壁なきも貧を知らず。

語句
小平津　　地名。洛水の津。
使気　　気に任せて侠を為す
中貴人　　宮中に奉仕し内臣の位を得た者を言う。
一掷千金　一度に千金もの大金を使って豪遊する。

現代語訳
天子の寵愛を得ているので、小平津という御猟場で自由に猟をすることができて、男伊達を好み血気盛んなさまで、常に中貴人の権力ある者と交際し、巷では一度の豪遊で千両の金を使って少しも惜しいと思わないのは、その一身が全て胆であるかのようだ。このように湯水のように金を使うのだが、実家は四方に壁がなく赤貧洗うがごとき有様であるということすら全く気にかけない。

第十八首

蒹　葭
jiān　jiā

蒹葭苍苍，白露为霜。
jiānjiā cāngcāng, báilù wéi shuāng.

所谓伊人，在水一方。
suǒwèi yī rén, zài shuǐ yìfāng.

溯洄从之，道阻且长。
sùhuí cóng zhī, dào zǔ qiě chǎng.

溯游從之，宛在水中央。
sùyou cóng zhī, wǎn zài shuǐ zhōngyāng.

蒹葭萋萋，白露未晞。
jiānjiā qiqi, báilù wéi xī.

所谓伊人，在水之湄。
suǒwèi yī rén, zài shuǐ zhi méi.

溯洄从之，道阻且跻。
sùhuí cóng zhī, dào zǔ qiě jī.

溯游从之，宛在水中坻。
sùyóu cóng zhī, wǎn zài shuǐ zhōngsi.

蒹葭采采，白露未已。
jiānjiā cǎicǎi, báilù wéijǐ.

所谓伊人，在水之涘。
suǒwèi yī rén, zài shuǐ zhī sì.

溯洄从之，道阻且右。
sùhuí cóng zhī, dào zǔ qiě yòu.

溯游从之，宛在水中沚。
sùyóu cóng zhī, wǎn zài shuǐ zhōngzhǐ.

書き下し文

蒹　　葭
蒹葭蒼蒼たり、白露霜と爲る。
所謂伊の人、水の一方に在り。
遡洄し之に從へば、道阻にして且つ長し。
遡游し之に從へば、宛として水の中央に在り。

蒹葭萋萋たり、白露未だ晞かず。
所謂伊の人、水の湄に在り。
溯洄し之に從へば道阻にして且つ躋る。
遡游し之に從へば、宛として水の中坻に在り。

蒹葭蒼蒼たり、白露未だ已まず。
所謂伊の人、水の涘に在り。
溯洄し之に從へば道阻にして且つ右る。
遡游し之に從へば、宛として水の中沚に在り。

語句

蒹葭　葦。蒹は長い穂のない葦、葭は生えたばかりの葦。
蒼蒼　繁ること。
白露　露の美称。白露。しらつゆ。
为　　動詞。〜になる。
所谓　いわゆる。ここでは、私が思うところの、という意味。
伊人　あのひと。“伊”は指示代名詞。
一方　もう一方。
溯　　流れに逆らって上っていくこと。
洄　　まがりくねった水の流れ。
从　　おいかける、したがう。
阻　　けわしい、道がきびしい。
游　　まっすぐな水の流れ。
宛　　あたかも、まるで。
萋萋　生い茂る様子
未　　まだ〜していない、これまで〜しなかった
晞　　乾く。
湄　　川岸、みぎわ
跻　　上る、あがる。
坻　　河や湖の中の小島、中洲。
采采　盛んで多いさま。
已　　止む。
涘　　水辺、岸。
右　　まがりくねっていること。
沚　　水辺の小さい洲、小島。

文法

一、蒹葭萋萋[*3]、白露为霜。

“为”は動詞。発音はwéi。“成为、变成”（〜になる、かわる）という意味。

1．我们要变沙漠为森林。
2．北京为中国首都。
3．拜他为师。

二、蒹葭萋萋[*3]、白露未晞

“未”は古代語の否定副詞の一である。“已”（すでに）の否定で、「まだ〜していない」「これまで〜したことがない」という強い否定である。

1．闻所未闻，见所未见。
2．未老先衰。

現代語訳

水辺の葦は蒼蒼として、白い露は霜となりはてる。
私が思うあの人は、この水の彼方にいる。
河をさかのぼって（陸路で）行こうとすれば、道は隔たって且つ長い。
流れに沿って下ろうとすれば(流れを下るだけだから行くのは容易いけれども)、
あなたの幻が水の中に見える。（近くにいるのに却って手が届かない。）

水辺の葦はびっしりと繁り、朝の露もまだかわいていない。
私が思うあの人は、この河の岸辺にいる。
河をさかのぼって陸を行こうとすれば、道は険しくつらい上り。
流れに沿って河をくだろうとすれば、あなたの幻が水の中洲に見える。

水辺の葦はざわざわと繁り、朝の露もまだ止んでいない。
私が思うあの人は、この水の草と水の境目にいる。
河をさかのぼって行こうとすれば、道は険しく求めがたい。
流れに沿って河をくだろうとすれば、あなたの幻が水の中洲に見える。

課題

この詩の中の「伊人」とは、どういう人を指しているのだろう。

第十九首

倾城倾国

gīng chéng qīng guó

李延年

Lǐ Yán nián

（『漢書　外戚:孝武李夫人伝』より）

北方有佳人。
běi fāng yǒu jiā rén.

绝世而独立。
jué shì ér dú lì.

一顾倾人城。
yí gù qīng rén chéng.

再顾倾人国。
zài gù qīng rén guó.

宁不知倾城而倾国。
nìng bù zhī qīng chéng ér qīng guó.

佳人再难得。
jiā rén zài nán dé.

書き下し文

北方に佳人有り、
絶世にして独り立つ、
一顧すれば人の城を傾け、
再顧すれば人の国を傾く、
寧んぞ城を傾け國を傾くと知らざらんや、
佳人再びは得難し。

語句

佳人　美人、佳人。
绝世　世にならぶもののない、最高の
独立　群を抜いている、比類ない
宁　　反語の副詞。いずくんぞ。行為や事態が予測を越えて現れる意味。

現代語訳

北方に佳人あり。比類なき絶世の美女。
一たび見れば城（街）を滅ぼし、再度見れば国が危うくなる。
街を滅ぼし国を危うくするとわかっていても、またとない美女なので手にいれようとせずにはいられない。

解説

班固『漢書　外戚伝下　孝武夫人伝』によると、前漢の武帝（B.C.140～B.C.88）の時代に李延年という宮廷楽士が、実の妹を宮女として武帝に推薦するために歌った詩であるという。武帝は後宮に多くの美女を擁していたが、一人として武帝の寵愛を得たものはいなかった。武帝は再度絶世の佳人を求めたいとおもいつつも、願はかなわずにいた。李延年には李妍という歌唄いの妹がおり、生来のあでやかでつつましやかな美人であり、歌舞にすぐれていた。李延年は彼女を後宮に推薦したいと思ったが、発言できずにいた。武帝は宮中で酒盛りの最中に、李延年は自作の歌を披露した。
「北方有佳人，绝世而独立。一顾倾人城，再顾倾人国。宁不知倾城与倾国，佳人难再得。」
これを聞いた武帝は「この世のどこにそんな佳人がいるのか」と問うて、李延年それが自分の妹であると伝えることができた。武帝が会ってみるとなるほど確かに歌のような比類の無い佳人、傾城傾国であったために、武帝は感動し、李延年の妹を妃として、李夫人と号せしめた。彼女は一年後に男子を生んで、病を得て死ぬまで武帝に寵愛されたそうである。

第二十首

易 水 歌
Yì shuǐ gē

荊　軻
Qing Ke

風蕭蕭兮易水寒。
Fēng xiāo xiāo xi Yì shuǐ hán.

壯士一去兮不復還。
Zhuāng shì yí qù xi bú fù huán.

書き下し文

易水歌

風蕭蕭として易水寒し。
壯士一たび去りて復た還らず。

語句

易水　河名。現在の河北省県にあり、当時は楚と燕の南の境界であった。
蕭蕭　秋風の音。
兮　古詩に用いられる文末詞。現代語の“啊”“呀”などに相当する。
　例）虞兮虞兮奈若何。（虞や虞や汝をいかんせん）
壯士　ここでは荊軻を指す。

現代語訳

北風が蕭々として易水の水は冷たい。
壯士は去って二度と戻ることはない。

解説

詩の作者、荊軻（? -前227）は戦国時代の衛国（現在の河南省）の人。『史記刺客伝』によれば、彼は読書を好み、剣術を善くした。燕国に赴いた際に、燕の太子丹の依頼で、秦王政（始皇帝）を刺そうとして失敗し、殺された。この詩は太子との別れに際し、易水のほとりで作った送別の歌である。

第二十一首

水调歌头

shuǐ diào gē tóu

苏　轼

Sū　Shì

明月几时有，把酒问青天。
míngyuè jǐshí yǒu, bǎ jiǔ wén qīngtiān.

不知天上宫阙，今夕是何年。
bùzhī tiānshàng gōngquè, jīnxī shí hé nián.

我欲乘风归去，惟恐琼楼玉宇，高处不胜寒。
wǒ yù chéng fēng guī qù, wéi kòng qióng lóu yùyǔ, gāo chù bù shēng hán.

起舞弄清影，何似在人间。
qǐwǔ nòng qīngyǐng, hésì zài rénjiān.

转朱阁，低绮户，照无眠。
zhuàn zhūgé, dī qǐhù, zhāo wú miàn.

不应有恨、 何事长向别时圆。
bù yìng yǒu hèn, hé shì cháng xiàng bié shí yuán.

人有悲欢离合，月有阴晴圆缺，此事古难全。
rén yǒu bēi huān lí hé, yùe yǒu yīn qíng yuán qùe, cǐ shì gǔ nán quán.

但愿人长久，千里共蝉娟。
dàn yuàn rén chángjiǔ, qiānlǐ gòng chánjuān.

書き下し文

水調歌頭

丙辰の中秋、歡び飲みて旦（あさ）に達す、大いに醉ひて、此の篇を作り、兼て子由を懐ふ

明月（めいげつ）幾時より有る。酒を把りて青空に問ふ。

知らず、天上の宮闕（きゅうけつ）を、今夕是れ何れの年かを。

我（われ）風に乗り帰去せんと欲すれど、惟だ恐る瓊樓玉宇（けいろうぎょくう）を。

高き處（ところ）の寒さに勝へざらんことを。

起ちて舞い清影を弄(ろう)す、何ぞ似ん人間に在るに。
朱閣に轉じ、綺戸に低(た)れ、無眠を照らす。
應(まさ)に恨み有るべからざるに、何事ぞ長えに別時に向いて圓かなり。
人に悲観離合有り、月に陰晴圓缺有り、此の事 古(いにしえ) より全う難し。
但だ願う人の長久を，千里嬋娟(せんえん)共にせんことを。

語句

水调歌头　唐代に「水調歌」という四部から成る大曲があり、その「歌頭」として95字から成る首段（元歌）の押韻の規則に倣って作詞されたために「蘇軾　水調歌頭」と言う。
何似　“何如，不如”（〜のほうが良い）。第十二首「山行」の文法解説を参照。
綺戸　まど
婵娟　女性の姿態があでやかで美しいさま、ここでは月を指す

現代語訳

名月はいつから空にあるのだろう。盃を握り空に問いかける。
天空の宮殿では今何年になるかわからないが、風に乗って尋ねてみたいものだ。
風に乗りふるさとに帰りたくても、天上の宮殿とはどのようなものだろう。
高いところは寒すぎるのではないだろうか。
月影はきらめき世上のあらゆるものを美しく照らし出す。
そのような地上にいるほうがどれほどいいだろうか。
月影は紅い楼閣を照らし、飾り窓にさしかかり中にいる人の無眠をやさしく照らす。
自分に恨みがあるわけではないだろうに、どうしてこのようなときにいつまでも月は円くあるのだろう。
人に悲観離合があるように、月にも陰晴円欠があり、このことは古来完全を目指すというのは難しいことであった。
ただ、あなたがこれからもずっと長く健やかであることを願う。互いに千里は慣れていたとしても、共に見上げる美しい月を共に見上げることはできる。

解説

蘇軾が1076年に地方官として蜜州（今の山東省）にいたときに作られた歌。弟の蘇轍とは七年間も会っていなかった。人間の悲歓離合の情を、この世を美しくやさしく照らしだす月に代表される宇宙の法則に沿わせ、自己の感情の矛盾や複雑さを繊細瀟洒に描写した。テレサ・テンの「但願人長久」でも知られる。

第二十二首

日本刀歌

Rìběn Dào Gē

欧阳脩

Ōu Yáng xiū

昆夷道远不复通，世传切玉谁能穷。
Kūn yí dào yuán bú fù tōng, shì chuán qiē yù shuéi néng qióng.

宝刀近出日本国，越贾得之沧海东。
Bǎo dào jìn chū Rìběn guó, Yuè jiǎ dé zhī cāng hǎi dōng.

鱼皮装贴香木鞘，黄白闲杂鎗与铜。
Yú pí zhuāng tiē xiāng mù qiào, huáng bái xián zá toū yǔ tóng.

百金传入好事手，佩服可以禳妖凶。
Bǎi jīn chúan rù hào shì shǒu, pèi fú kě yǐ ráng yāo xióng.

传闻其国居大岛，土壤沃饶风俗好。
Chua´n we´n qi´ guo´ ju` da dao, tu ran ao rao feng su hao.

其先徐福诈秦民，采药淹留丱童老。
Qi xian Xu Fu zha qin min, cai yao yan liu guàn tóng lǎo.

百工五种与之居，至今器玩皆精巧。
Bǎi gōng wǔ zhǒng yǔ zhī jù, zhì jīn qì wán jié jīng qiǎo.

前朝贡献屡往来，士人往往工辞藻。
Qián cháo gōng xiàn lǚ wǎng lái,shì rén wáng wáng gōng cí zǎo.

徐福行时书未焚，逸书百篇今尚存。
Xú Fú xíng shí shū wèi fén, yì shū bǎi piān jīn shàng cún.

令严不许传中国，举世无人识古文。
Lìng yán bù xǔ chuán Zhōng guó, jǔ shì wú rén shí gǔ wén.

先王大典藏夷貊，苍波浩荡无通津。
Xiān wáng dà diǎn cáng yí mò, cāng bō háo dàng wú tóng jīng.

令人感激坐流涕，锈涩短刀何足云。
Lìng rén gǎn jī zuò liú tì, xiū sè duǎn dāo hé zú yún.

書き下し文

日本刀の歌

昆夷（こんい）、道遠ければ復（ま）た通ぜず，世に伝ふ切玉　谁か能（よ）く窮めん。
宝刀近く日本国に出で，越賈（えつこ）、之を滄海の東に得。
魚皮 装（よそほ） ひ貼る香木の鞘，黄白閒雑す鍮（ちう）と銅。
百金にて伝へ入る好事の手，佩服せば以て妖凶を禳（はら）ふ可し。

伝へ聞く其の国大いなる島に居り，土壌沃饒（よくぜう）にして風俗好しと。
其の先徐福秦民を 诈（じょふく） り，採薬せんと淹留し 丱（たばか） 童 老ゆ。
百工五種之と與に居り，今に至るも器玩（きぐわん）皆な精巧。
前朝に贡献し 屡（しばしば） 往来，士人往往辞藻 工（たくみ） なり。

徐福行きし時書未だ焚かざれば，逸書百篇今尚ほ存す。
令（れい）厳しくして中国に伝ふるを許さざれば，挙世して古文識る人無し。
先王の大典夷貊（いはく）に藏し，蒼波浩荡として津の通ずる無し。
人をして感激せしめ坐（そぞろ）に流涕せしむ，锈涩（しうじふ）短刀の何ぞ云ふに足らん。

単語

沧海　青黒い色の海、大海原
禳　　御祓をする、災いを払う
徐福　秦代の方士。始皇帝の命で童男童女数千名を連れて海中の三神山に不死の薬を探しに出かけたという。しかし三神山は発見できず、日本の紀州に上陸したとも言われている。
丱　　総角，昔時の幼児の髪の結い方。髪を左右に分けて頭上でわがね、双角状に両輪を作ったもの。転じて幼少を指す。
古文　焚書以前の書物は古い自体で書かれている。漢代以降に復元されたものは秦以後の字体で書かれており、これを今文という。

現代語訳

昆夷（こんい）への道は遠く、今は人も通わない。
玉を切る名刀があると伝えられているが、今では誰も知る人がいない。
近頃宝刀が日本国から来た。
越の商人が大海の東で手に入れたものだという。
香木の鞘に装い巻かれた魚の皮。
黄色と白が入り交じっているのは、真鍮と銅。
百金で好事家の手にわたったとされる。
これを帯びれば、邪気妖気を払う事ができるという。

伝へ聞く、その国は大いなる島の上にあって，土壌は肥沃で風俗も好いと。
かつて徐福が秦の民を欺き、神約を採らせると滞留させたが童男童女は老いた。
様々な職業の人々とともにあって、今でも作られる道具あ皆精巧。
唐朝の折に貢ぎ物をささげに屢々往来し、
士人の中には詞を巧みにするものもあるという。

徐福が来日したときは書物はまだ焼かれていなかったので、
今では中国で散逸した書籍百編がまだ存するという。
しかし禁令がきびしく、中国に伝えることが許されないため、
こちらでは一人として焚書以前の書物を読める人がいない。
先王の定めた古典が夷狄の地に隠されている。
海原は広々として、尋ねにいくあてもない。
夷狄の美しい刀を前に、このようなことに思いを馳せ、心が高ぶり、思わず涙するが、それはこの刀がここに至るまでのことを考えたからであって、実はこんなに錆びた短い刀が一本伝えられたからといって、何程のこともない、どうしようもないようなことなのである。

第二十三首

偶成
Oǔ chéng

朱熹
Zhū Xī

少年易老学难成。
Shaò nián yì`lǎo xué nán chéng.

一寸光阴不可轻。
Yìcūn guāng yīn bùkě qīng.

未觉池塘春草梦。
Wèi jué chí táng chūn cǎo mèng.

阶前梧叶已秋声。
Jiē qián wú yè yǐ qiū shēng.

書き下し文

偶成
少年老い易く　学成り難し。
一寸の光陰　軽んず可からず。
未だ覚めず池塘　春草の夢。
階前の梧葉　已に秋声。

語句

偶成　たまたまできた詩
少年　若者。「少」は若い
光陰　光と影「光」は昼、「陰」は夜。時間を表す。
池塘　池の堤
階前　きざはしの前。「階（きざはし）」は堂に上る階段
梧葉　青桐の葉

現代語訳

少年は老い易く学問は大成しにくいので、僅かな時間でも無駄にしてはならない。池の堤の若草の上でまどろんだ春の夢がまだ覚めないうちに、階（きざはし）の前の青梧の葉には已に秋風が吹くように、時間はあっという間に過ぎ去ってしまうのである。

第二十四首

大德歌春

Dà dé gē chūn

关 汉 卿

Guān Hàn qīn

子规啼，不如归，道是春归人未归。
Zǐ guī tí, bù rú guī, dào shì chūn guī rén wèi guī.

几日添憔悴，虚飘飘柳絮飞。
Jǐ rì tiān qiáocuì, xū piāo piāo liǔ xù fēi.

一春鱼雁无消息，则见双燕斗衔泥。
Yì chūn yú yàn wú xiāoxì, zé jiàn shuāng yàn dòu xián ní.

書き下し文

子规の啼く、不如归と。
道(い)ふは是れ春帰り人未だ帰らずと。
幾日か添へる憔悴、虚飘飘として柳絮(りゅうじょ)飛ぶ。
一春にして鱼雁の消息無く、則ち見る双燕の斗(にはか)に泥を銜(くわふる)を。

語句

不如　～したほうが良い、～に如かず。
鱼雁　手紙の別称。
斗　　あらそって、はげしく

現代語訳

春の杜鵑が「不如帰」と泣くのは、あたかも「帰ってこいよ」と言っているかのようである。
あなたが行くとき、春になったら帰ってくると行ったのに、こうやって春が来ても、あなたの影さえも見えない。近頃ではかつての美しい容貌もすっかり憔悴してしまい、ふわふわとただよう柳絮のようなたよりなさである。まるまる一春九十日を待って、結局何の知らせもなかったのに、燕だけが早々と帰ってきて、忙しくも楽しそうに巣作りをしている。

解説

「大德歌」は関漢卿が元の成宗年間(1297-1307)に創作した新しい曲調である。この歌が作られた詳しい年については明らかではない。詩の内容は、若い女性が、出奔した夫あるいは情人の帰りを待つことを詠んだ歌。燕が泥を運ぶというのは、巣作りをしていることを指し、目出たい春の兆しを見ても我が身の境遇を恨めしく思う気持ちであろうか。

第二十五首

大德歌夏

Dà dé gē xià

关 汉 卿

Guān Hàn qīn

俏冤家，在天涯，偏那里绿杨堪系马。
Qiào yuán jiā, zài tiān yá, piān nà lǐ lǜ yáng kān xì mǎ.

困坐南窗下，数对清风想念他。
Yīn zuò nán chuān xià, shù duì qīng fēng xiǎng niàn tā.

蛾眉淡了教谁画，瘦岩岩羞戴石榴花。
É méi dàn liǎo jiào shueí huà, shòu yán yán xiū dài shí liú huā.

書き下し文

冤家の俏たり。天涯に在りて。偏へに那里（あの）緑楊の馬を系ぐに堪へん。
南窗の下に困坐し。数く清風に対するに他（かのひと）を想念す。
蛾眉淡了（うすくなる）、誰に画かしむ。瘦岩岩として羞戴する石榴花。

語句

俏冤家　美しい愛しい人。
偏　　ひとえに、ことさら（楊が頼りないので馬がつなげないという恨み言）

現代語訳

美しい愛しい人はどこにいるのだろう。これもひとえにあの緑楊の木では彼の馬をつなぐのには十分ではないためだ。
南に面した窓の下に困座し、清風に対するごとに彼を思う。
眉が薄くなってしまっても誰に描いてもらえばいいのやら。
私はこんなにごつごつとやせてしまって、石榴の花でも飾っておこう。

第二十六首

大德歌秋
Dà dé gē qiū

关 汉 卿
Guān Hàn qīn

风飘飘，雨潇潇，便做陈抟睡不着。
Fēng piāo piāo, yǔ xiāo xiāo, biàn zuò chén tuán shuí bù zháo.

懊恼伤怀抱，扑簌簌泪点抛。
Ào nǎo shāng huái bào, pū sè sè lèi diǎn pāo.

秋蝉儿噪罢寒蛩儿叫，淅零零细雨打芭蕉。
Qiū chán ér zào bà hán qióng ér jiào, xī líng líng xì dǎ bā jiāo.

書き下し文

風飄飄、雨潇潇として便ち陳摶（ちんたん）の睡りに着けず
懊悩し懐抱（ふところ）を傷め，扑簌簌（ぽたぽた）と泪点（お）抛つ
秋蝉（あきせみ）儿の噪罢（なきごえ）、寒蛩（かんきょう）儿の叫び，淅零零なる细雨芭蕉を打つ。

語句

陈抟　陳摶。五代宋初の著名な道士。字は図南、自ら扶揺子と号す。華山にて修行を積み、一度寝ると百日起きなかったという。
扑簌簌　涙が流れる様子。
蛩　こおろぎ。
淅零零　雨音。

現代語訳

寒風が吹いて、冷たい雨が降り、あの陳摶さえも眠れなくなる。
語り尽くせない煩悩と悩みが心を蝕み、傷心の涙がぽたぽたと真珠を抛つように落ちる。
秋蝉の鳴き声、秋の蟋蟀の鳴き声、小雨がさわさわと芭蕉の葉を打つ。

第二十七首

大德歌冬

Dà dé gē dōng

关 汉 卿

Guān Hàn qīn

雪纷纷，掩重门，不由人不断魂。
Xuě fēn fēn, Yǎn zhòng mén, Bù yóu rén bú duàn hūn.

瘦损江梅韵，那里是清江江上村。
Shòu sǔn jiāng méi yùn, Nà lǐ shì qīng jiāng jiāng shàng cūn.

香闺里冷落谁瞅问，好一个憔悴的凭栏人。
Xiāng guì lǐ lěng luò shuéi qiū wèn, Hǎo yí ge qiáo cuì de píng lán rén.

書き下し文

雪紛紛として重門を掩る。不由人不断魂。
瘦損江梅韻。那里是清江江上村。
香閨里冷落誰瞅問。好一个憔悴的凭栏人。

語句

断魂	人の悲しみを形容したことば。
江梅	唐玄宗皇帝の妃である梅妃を指す。本姓は江、梅を愛したことにより，玄宗より梅妃の名を賜った。
瘦損江梅韻	梅妃のようにやせ衰えていく様。
凭栏人	ひとり欄干によりかかり雪景色を見る寂寞な心境を表す。

現代語訳

雪が降りつもりそうでなくても重たい門を遮る。人は絶えることなく断魂する。
梅妃の風雅な顔はやせ衰えてしまった。
高い山も行く人を遮らないという清江江上村はどこにあるのだろう。
閨房の中は覚めきって訪れる者もない。
ただひとり憔悴して欄干にもたれ雪景色を見る。

第二十八首

常山有虎将
Cháng shān yǒu hǔ jiāng

罗贯中
Luo guan zhong

常山有虎将。
Cháng shān yǒu hǔ jiāng.

智勇匹关张。
Zhì yǒng pí guān zhāng.

汉水功勋在。
Hàn shuǐ gōng xūn zài.

当阳姓字彰。
Dāng yáng xìng zì zhāng.

两番扶幼主。
Liaǎg fān fù yòu zhǔ.

一念达先皇。
Yí niàn dá xiān huáng.

青史书中烈。
Qīng shǐ shū zhōng liè.

应流百世芳。
Yīng líu bǎi shí fāng.

書き下し文

常山に虎将有り。智勇関张に匹(なら)ぶ。
漢水に功勲在り，当陽に姓字彰(あきら)かなり。
両番幼主を扶(たす)け，一念先皇に答ふ。
青史に中烈を書し，応に百世に芳(かんばせ)を流すべし。

第二十九首

忆昔常山赵子龙
Yì xī Cháng shān Zhào Zǐ lóng

罗贯中

忆昔常山赵子龙。
Yì xī Cháng shān Zhào Zǐ lóng.

年登七十建奇功。
Nián dēng qī shí jiàn qí gōng.

独诛四将来冲阵。
Dú zhū sì jiāng lái chóng zhèn.

犹似当阳救主雄。
Yōu sì Dāng yáng jiù zhǔ xióng.

書き下し文
憶う昔常山趙子龍。
年七十に登りて奇功を建つ。
独り四将を誅し来たりて陣を衝きしは、
猶ほ当陽に主を救うの雄に似たり。

解説
“四将”とは

第三十首

兰花草
Lán huā cǎo

胡适
Hú shí

我从山中来，带着兰花草。
Wǒ cóng shān zhōng lái, dàizhe lánhuācǎo.

种在小园中，希望花开早。
Zhòng zài xiǎo yuán zhōng, xīwàng huā kāi zǎo.

一日看三回，看得花时过。
Yí rì kàn sān huí, kàn dé huā shí guò.

兰花却依然，苞也无一个。
Lánhuā què yīrán, bāo yě wú yí gè.

转眼秋天到，移兰入暖房。
Zhuǎnyǎn qiū tiān dào, yí lán rù nuǎn fáng.

朝朝频顾惜，夜夜不相忘。
Zhāo zhāo pín gù xī, yè yè bù xiāng wàng.

期待春花开，能将夙愿偿。
Qīdài chūn huā kāi, néng jiāng sù yuàn cháng.

满庭花簇簇，添得许多香。
Mǎng tíng huā cù cù, tiān dé xǔ duō xiāng.

単語

兰花　蘭の花、蘭
种　　植える
时过　時が経つにつれて様子が変わること
却　　反対に、かえって
依然　相変わらず
苞　　つぼみ
无　　ない（＝没有，⇔有）
转眼　またたく間に
频　　しょっちゅう
顾惜　きにかける
相　　一方が他方に働きかける行為や態度を表す。主として単音節動詞を修飾する。例：相帮（助ける）、相处（つきあう、生活や仕事をともにする）、相得（気が合う）、相干（かかわりあう）等。
将　　～を（現代語の“把”に相当）
夙愿　宿願。
偿　　満たす、果たす
簇簇　群がる、連なる
许多　おおくの、あまねく

現代語訳

山から蘭の花をとってきた。
庭に植えて、花が早く咲くといいと願う。
一日に何度も様子を見て、花が変わる様子を見たけれど、
蘭はつぼみ一つさえつけなかった。
もうすぐ秋が来るので蘭を暖かい部屋に入れた。
毎朝様子を見て、毎夜忘れることができなかった。
春になって花が咲けば願いがかなうだろう。
庭いっぱいに花が咲いて連なり、たくさんの香りで満たされるだろう。

作者一覧・略歴

荊軻（?-227）戦国時代末期の燕の刺客。冷静沈着で文武に優れていたとされる。

楊炯（650-705）初唐の詩人。幼少から才名が高く、進士に及第して崇文館学士となるも左遷され、盈川の令となり没す。初唐四傑と称される。

陳子昂（ちんすごう）（661-702）初唐の詩人。梓州射洪（四川省）の人。大地主の家に生まれて若いうちは任侠を事としたが、のち学問に励み進士及第。則天武后に重用される。698年職を辞して郷里に帰り老父に仕えたが、父の死後財産に目をつけた県令に捕えられ獄死。従来の南朝風の繊細な詩風に批判的で、漢、魏の気骨に立ち返ることを主張した。盛唐詩の先駆者とされる。

王之渙（688-742）唐の詩人。并州晋陽（山西省太原市）出身。字は季陵。開元年間の初めに冀州衡水県（河北省）の主簿に就いたが辞職し、15年間無官で過ごし、晩年に文安県（河北省）の尉に就いた。当時、詩名は高く、その詩は人々に愛誦されたと伝えられている。王昌齢や高適などと肩を並べ、辺塞詩が多い。中でも『涼州詞』『登鸛鵲楼』は唐詩中の絶唱とされる。

孟浩然（689-740）盛唐時代の代表的詩人。字は浩然。襄州襄陽（湖北省襄陽市）の人。

李白（701-762）盛唐の詩人。字は太白、号は青蓮居士。若い頃は任侠を好み、四川を振り出しに江南、山東、山西を遊歴し、42歳の時に長安に出て翰林供奉（ぐぶ）となるも高力士に憎まれ追われる。安禄山の乱に際して永王の側についたために貴州に流される。大赦にあうも各地を放浪するうちに安徽省で死んだ。自由奔放で豪快な詩風。杜甫とともに中国最高の詩人とされ、杜甫は「詩聖」、李白は「詩仙」と称せられる。

崔顥（さいこう）（704-754）、汴州（現河南省開封市）の人。進士。若い時は酒色を好み艶麗な詩を書いたが、太原（山西省太原市）の河東節度使の幕僚となり辺塞を経験したことで詩風が変わる。晩年に書かれたとされる「黄鶴楼」は唐七言律詩中の絶唱として名高い。

杜甫（712-770）盛唐の詩人。襄陽（河南省）の人。字は子美、少陵と号す。科挙に失敗し、江南を遍歴するうちに李白や高適と交わる。やがて長安に出て仕官したが低い身分にとどまり、安禄山の乱をきっかけとして官を捨て蜀の成都へ落ち延びた。帰郷を志し放浪の生活を続ける中で舟中で病没した。唐代のみならず中国最大の詩人として李白と並んで「李杜」と称せられ、詩聖と呼ばれた。

王維（?-761頃）唐の詩人。容姿すぐれた才人として高名で、尚書右丞を歴任。詩のほかに書や画や琴をよくしたとされる。

杜牧（ぼくし）（803-852）晩唐の詩人。字は牧之、京兆万年（陝西省西安）の人。書家。晩唐の技巧的な風潮を排して平明で豪放な詩を作る。杜甫の「老杜」に対して「小杜」と称される。

王翰　生没年未詳。初唐の詩人。字は子羽。晉陽（山西省太原）人。若くして豪邁、才を恃み酒を喜む。進士。後に汝州の長史となったが、事に坐して道州の司馬に貶せられ、幾許もなくして卒す。

呉象之　生没年未詳。唐の詩人。

欧陽脩（1007-1072）北宋の政治家、学者。酔翁と号す。唐宋八大家の一人。1030年に進士に及第するも、王安石の新法に反対したため左遷され、西湖のほとりで没した。『欧陽文忠公全集』（153巻）がある。

蘇軾（1036-1101）中国北宋代の政治家、詩人、書家。代表作に、「赤壁賦」などがある。

朱熹（1130－1200）、南宋の哲学者、詩人。福建省建州人。18歳で進士に合格。早くに官を辞し、故郷で学問研究に没頭し、後に我国の官学ともなった朱子学を完成させた。その後復権し地方の知事などを歴任しながら「論語集注（しっちゅう）」「孟子集注」など多くの研究書を世に出した。

関漢卿　生卒年未詳。金末から元代にかけての代表的劇作家。大都を中心に演劇活動を行った元曲の第一人者であり、代表作に「竇娥冤」「救風塵」「金線池」「胡蝶夢」「不伏老」などがある。

羅貫中　生没年未詳。元末明初の小説家、劇作家。宋、元代に流行した話本をもとに『三國志演義』『水滸伝』などの白話長編小説を作った。

胡適（1891-1962）、文学者、思想家。安徽省出身。アメリカ留学を経て、北京大学教授となる。白話文学を提唱する。中華人民共和国成立後はアメリカに亡命し、後に台湾で没。